**要配慮者（**災害時要援護者）支援に係る主な取組み状況について

資料３

（令和元年度実績：12月23日時点）

１　避難行動要支援者名簿について

⑴　尼崎市要配慮者数等一覧（令和元年12月1日時点）



（参考）避難行動要支援者等の定義



⑵　避難行動要支援者名簿提供団体数推移について

支援体制づくりにご理解頂いた地域に対して避難行動要支援者名簿の提供を進め、令和元年12月1日時点で、16社会福祉連絡協議会（以下「連協」という）、22単位福祉協会（以下「単協」という）に提供した。



（提供団体数の考え方）

地域の支援団体の中心となる自主防災会は、原則、連協単位で組織されているため、名簿の提供は連協単位で進めているが、単協ごとに先行して支援に取り組む場合は、単協単位で提供するため、単協として提供団体数に計上している。

なお、連協内の全ての単協に名簿提供が完了した場合は、単協として計上している提供団体数を、１連協として計上し直している。

２　福祉避難所について

⑴　福祉避難所の指定

新たに、特別支援学校１校、障害者施設９施設、市施設１施設を福祉避難所に指定し、36施設（令和元年12月23日時点）となった。

現在、市施設である子どもの育ち支援センター（いくしあ）、ユース交流センター（あまぽーと、アマブラリ）の指定手続きを進めているほか、市内の社会福祉施設等と福祉避難所の指定に向けた協議を進めている。



⑵　福祉避難所開設運営マニュアルの作成支援等

福祉避難所開設・運営マニュアル作成手順書に基づき、各指定施設のマニュアル作成及び訓練を支援した。



３　支援関係者との連携

福祉専門職と連携した要配慮者支援体制の検討を行うことを目的に、ケアマネジャーや障害者相談支援員に対し、兵庫県主催の防災力向上研修への受講の協力依頼を行った。

また、防災意識の向上や市との協力体制などについて尼崎市ケアマネジャー協会の災害対策委員会に参画し協議を行うとともに、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）の関係者と意見交換を行った。

４　要配慮者（災害時要援護者）避難支援に向けた周知啓発

⑴　地域団体等への周知啓発

「尼崎市避難行動要支援者避難支援指針」を活用し、市政出前講座や地域の集まりで周知啓発を行った。（R1.12.23時点：24回）

また、令和元年10月の「防災ブック」の発行と合わせて、改めて要配慮者支援の「自助」「共助」の重要性について、市報、市ホームページでの啓発を行ったほか、尼崎市ケアマネジャー協会との共催事業として、令和2年2月3日に防災と福祉に関する講演会を予定している。（別添「防災×福祉セミナー」チラシ参照）

⑵　防災教育の支援

若い世代が地域防災活動の担い手となるよう、高校生・大学生が当事者団体、福祉避難所指定施設と協働して取組む防災イベント等の支援を行った。

|  |
| --- |
| 【県立尼崎小田高校　看護・医療類型】  避難行動要支援者の支援について高校生ができることを模索するために、要配慮者支援の市民啓発、福祉避難所の機能強化や協定を結ぶ施設を増やす取組、ユニバーサルデザイン避難所の検討を行った。  また、あまおだ減災フェスの実施、イベント等での要配慮者支援劇の公演、防災にかかる市民啓発用カレンダーの作成、FMあまがさきでの情報発信などに取り組んでいる。  C:\Users\ama0022643\Desktop\令和元年度\02　支え合いを育む人づくり支援事業補助写真\01　県立尼崎小田高校\12　喜楽苑との福祉避難所訓練（Ｒ元.11.28）\DSCN3017.JPG  杭瀬団地連協との防災訓練  喜楽園との防災訓練 （車椅子垂直避難訓練）  ） |
| 【県立尼崎西高校】  ユネスコセミナーでの防災活動の発表  学校と地域が連携して築く、地域防災体制のあり方を学ぶために、東日本大震災の被災地を訪問し、被災体験を学習する。また、報告会等を通じて、市民向けにその教訓を伝えるとともに、地域の防災訓練に参加した。  西大島社会福祉連絡協議会との防災訓練　ほか  アルカイック防災フェスティバルでの活動報告  西大島連協との防災訓練 |
| 【関西大学　社会安全学部　近藤ゼミ】  難病患者・障害児者・高齢者などの要配慮者が防災対応に苦慮しているため、学生が要配慮者との交流を通して支援手法を検討した。  また、市民向けの防災情報発信のために、尼崎難病団体連絡協議会と共同し難病患者・障害児者の「個別避難カルテ（ぐっど・もっとカルテ）」を製作し、シンポジウム等で報告するほか、FMあまがさきにおける防災福祉番組「ぼうさいアイアイ」の製作を通した独自の情報発信を行っている。  FMあまがさき防災福祉番組  「ぼうさいアイアイ」  難病連フォーラムでの報告  大学ゼミでの講義 |
| 【関西国際大学　国際コミュニケーション学部　横山ゼミ】  　学生が、震災復興住宅の住民の孤立化を防止するための取組みを進めているNPO法人と協働し、阪神・淡路大震災で被災した高齢者への傾聴ボランティアを実施する。  阪神・淡路大震災体験者への傾聴ボランティアの事前学習 |
| 【武庫川女子大学　教育学部　吉井ゼミ】  学生が防災・減災という視点で、地域に何ができるのかを考えるため、大庄地区にある子どもの居場所の周辺地域等での防災上の課題を調べ、子どもたちと共に防災マップ作りを行い、子どもたち自身が防災について考える機会を作った。  また、避難所での行動や限られた物品で生活する方法の検討、実践するとともに、自分たちで考えた知識・知恵などをまとめたリーフレットを作成し、子どもや学生に周知を行う。  子供の居場所づくりと防災学習 |

以　上